



# 事務局ニュース

〈7号①〉

2016. 9. 14

夏休みも終わり、ちょっと一息つきましたね。秋もそこまで来たようです。オリンピックをはじめ、いろいろなところで行われた全国大会の結果報告・感想をびっしりお伝えします！



まずは、9月4日（日）日本ガイシアリーナにて、愛知県スプリント選手権が行われ、朝早くから 2,033 名の選手が 50m 競技に参加しました。

競技の合間に 9 日から始まる「岩手国体」に参加する代表選手とコーチの紹介があり、エールで気合いを見せてくれました。「愛知県」を代表し、天皇杯 5 位以上を目標に頑張ってきてくれることを期待します。

〈左写真は、大きな声でエールをかけている選手たち〉

## 市民スポーツ祭「飛込競技大会」 8月7日

5月から8月まで、名古屋市水泳連盟主催の飛込教室が行われ、この大会に出場するのを楽しみに、小学低学年から60代までの選手が“技の競い合い”をしました。トランポリンを主体に練習している方の参加が多く、かなり高度な技を取り入れ、年齢を感じさせない演技が見られました。今までにない、にぎやかな競技会となりました。

飛込委員長より 〈右写真は、参加選手たち〉

満足した笑顔ですね。けがのないように気をつけて、これからもがんばってください。



## 日本実業団水泳競技大会 8月6～7日 高知

第 67 回を迎える実業団大会が高知県くろしおアリーナにて開催されました。くしくもリオオリンピック競泳種目初日と同日スタートとなりました。予選中に萩野公介選手の金メダル獲得の速報が会場に流れ、大会に華を添えられました。大会はオリンピックイヤーということでハイレベルのレースが多数あり、大変盛り上がりました。

また、実業団ならではの連続出場のセレモニーがあり、40年・30年連続と水泳を愛する人たちへの記念品授与が行われました。来年は静岡県富士市での開催です。2018年より本大会の様式が変わると聞いています。68年の良き伝統がどのように引き継がれていくのか心配ですが、今後も見に行きたいと思います。

県内企業クラブの応援に行かれた方より

伝統ある大会ですから、仕事とともに今後も活躍できる場になるといいですね。

## 全国中学校水泳競技大会 8月17～19日

リオのオリンピックで日本代表選手が活躍をしていた頃、17日から3日間、新潟・長岡で行われた「第56回全国中学校水泳競技大会」は、「君の夢、努力の蕾、北信越で華となれ！」のスローガンのもと、全国から1063名の中学生スイマーが結集し、熱戦が繰り広げられました。オリンピックにも出場した酒井夏海さんが、100m背泳ぎで大会新記録を残すなど、6つの種目で大会新記録が出されました。

愛知県は、87名の選手が参加しました。特に豊橋東部中学校が男子400mドレーラーでは3位・フリーで7位に入賞し、活躍しました。個人では、加藤晃成君（同中学1年生）が400m個人ドレーで2位、200m個人ドレーで6位に入賞し、男子総合3位という素晴らしい成績を収めました。来年の全中は、鹿児島です。より一層の活躍を期待しています。

帯同役員より

ドレーラーは4人の力が必要です。

オリンピックのドレーラーの場面が思い出されました。



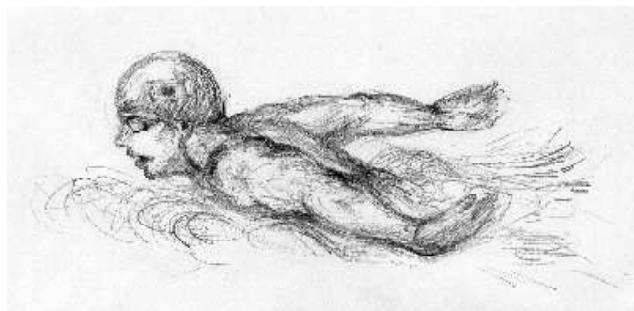
〈男子総合3位の豊橋東部中学校の選手〉

## 日本高等学校選手権水泳競技大会

8月17～20日 広島

オリンピック出場の池江選手・今井選手・長谷川選手が参加し、大いに盛り上がった大会になった。男子総合優勝は豊川高が5連覇を達成。女子は昨年埼玉栄に奪われた優勝旗を取り戻した豊川高が、2年ぶり3回目の総合優勝を果たした。今大会からB決勝が行われ16位まで得点が入ることによって総合順位争いも熾烈となった。(日水連の記事より)

(競技役員の方が描いてくださいました)



(インターハイ会場とアベック優勝の豊川高選手)

## 【3年生としてむかえた夏】

今年のインターハイは、男子5連覇・女子王座奪還を目標としてこの1年練習してきました。正直先輩たちのいないインターハイは不安でした。それでも目指しているのは日本一。弱音なんて吐いている場合ではなく、今までやってきたこと、先生・仲間を信じて泳ぐだけと言い聞かせました。全員が全員上手くいったわけではないけれど、仲間同士で支え合い、結果は男女総合アベック優勝！チームの最大目標が達成できました。

ほんとうに周りの方々には感謝の気持ちでいっぱい、何よりこのチームでしか味わうことのできないことを経験できて、このチームで戦えたことが誇りです。素晴らしい先生、最高の仲間巡り合えました。これからも後輩たちが、豊川高校水泳部を更に強いチームへ導いてくれると信じています。

(豊川高女子キャプテンより)

目標達成おめでとう！！「チーム豊川」の仲間をこれからも応援してください。

## 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会

(競泳・東京) (シンクロ・三重) (飛込・大阪) (水球・大阪) 8月22～26日

ジュニアスイマーの最高の見せ場、「全国JOC」が各地で一斉に行われた。初日は、台風9号が関東を直撃し、競泳は大変だったとか。選手は勿論、コーチはじめ保護者の皆さんお疲れ様でした。

競泳競技の初日、11～12歳区分のレースが行われ、早速大会新記録が2つ誕生した。ひとつは200m自由形。加藤晃成選手(豊橋SS)がひとり57秒台で前半を折り返し、1分56秒73の大会新記録で優勝。

加藤選手は、このあと行われた200m個人メドレーでも優勝して2冠を果たした。もうひとつは・・・

2日目、11～12歳区分で優秀選手として加藤晃成選手(豊橋SS)・育成コーチとして植島嵩博コーチ(豊橋SS)が表彰された。

最終日、大会終了後に男女総合表彰と年齢別、個人表彰が発表された。

団体表彰(男女総合)3位・豊川高校 15～16歳区分で優勝・豊川高 CS区分で準優勝・豊川高

(日水連の記事より)

ここからは「夏の思い出・感動」としていただいたお便りを紹介します。

## 【オリンピックを見て】

夏に一番活動する水泳ですが、リオ・オリンピックが開催され、金メダルを取るまでに至りました。それを生放送で見た私は、鳥肌が立つほど感動しました。

私は水泳を始めて数ヶ月の初心者。大会に出場するようになりましたが、緊張して不安になったり、ミスを恐れ大会に対して苦手意識を持ったりしました。しかし、生放送の映像を思い出すと考え方がポジティブになり、水中で周りが見えないほど緊張したときでも、心の支えになり泳ぐ気力を湧かせてくれました。

(10代男性)





(800 mリレーのメンバー 20代女性より)

リオ・オリンピックを見て、日本選手の活躍に大変感動しました。特に水泳は、金メダルが2個、銀・銅もあり、大変嬉しく思いました。中でも男子200 mバタフライの後半の追い上げが素晴らしく、最後まであきらめない姿が一番心に残りました。

今回の大会に出場している選手は、苦しく厳しい練習をしていると思います。オリンピック当日の一回のレースをMAXの状態に持っていくことは、本当に容易ではないと思います。体力・技術に加え、精神力といった「心技体」がそろえることが重要だと思いました。メダルを取れなかった選手も、出場するだけ

で素晴らしいことなので、心からお疲れ様でしたと言いたいです。私は水泳が大好きなので、次回の東京オリンピックでもたくさんのメダル獲得を期待しています。(10代女性)

【オリンピックで感じたもの】

私は高校に入るまでは水泳というスポーツと縁がなく、もちろんオリンピックを見たこともありませんでした。しかし、水泳部のマネージャーを始めてからは、水泳とは無縁ではなくなり、大会のお手伝いもするようになりました。市民大会(8/7)の会場で、オリンピックの中継が電光掲示板に映し出されると、今まで忙しそうにしていた人は手を止め、話をしていた人は話すのを止め、皆が一斉にビジョンを見つめていました。選手たちがメダルを取った瞬間は会場が盛り上がりました。私はその光景がとても魅力的に思えました。選手がメダルを取れたのは本人の努力はもちろんですが、陰で支えてくれた人がいたからだと思います。私はまだ未熟な部分も多いですが、少しでも部活の選手たちに協力できれば良いと思います。(10代女性)



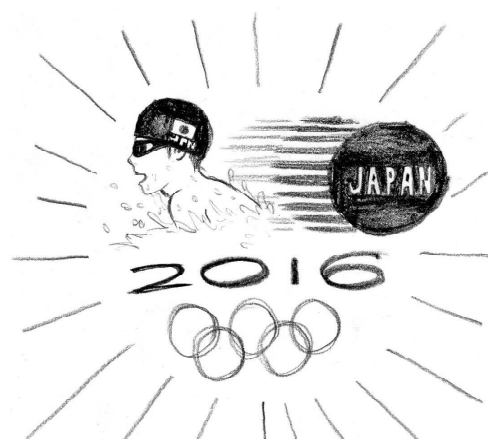
スイマーとしてではなく、マネージャーという役割も大切です。

選手から頼られ、一緒に目標達成できるといいですね。大会のお手伝いありがとうございました。

日本に今大会初の金メダルをもたらした萩野公介選手。日本競泳女子で5番目の金メダリストの金藤理恵選手。日本五輪史上最多のメダル41個を獲得したリオ大会で、水泳選手の活躍は光っている。若い選手たちの活躍に4年後の東京五輪への期待がふくらむ。

その一方、期待されながら良い成績を残せなかった選手のことばも胸に迫る。水泳では、入江陵介選手の「選手としての賞味期限切れなのかもしれない」という涙ながらの言葉もその一つである。でも、これまでの入江選手の活躍を日本人は忘れない。

(70代 女性)



(金藤選手 20代女性より)

【リオ・オリンピックを終えて】

今回のオリンピックでは、最高のメダル数41個を取得しました。その中で印象に残ったのは、陸上400 mリレーです。日本独自のバトンパスにより銀メダルを取ったことです。個人では入賞できなかったが、チームでメダルを取るという気持ちの表れではなかったかと思います。しかし、私としては水泳(競泳)を忘れていません。ひとつは地元の今井月選手の出場です。初めてのオリンピック参加で実力を発揮できませんでしたが、東京オリンピックに期待したいと思います。もうひとつは、400 m個人トローでの萩野公介選手と瀬戸大也選手のライバルレースです。2020年東京オリンピックでは、今大会を越えるメダルを獲得すると感じています。(50代男性)